

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀市立城東中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と生徒との関係は良好で、良い雰囲気の中で学校生活を送ることができている。授業については、教師の方をしっかりと見て受けており、授業改善を図りながら学習指導に取り組んだと感じている教師が多かった。</li> <li>・設定したそれぞれの成果指標について達成することができた。学校評議員会においても委員の方々からは、学校の取組に賛同され高い評価を得ることができた。</li> <li>・生徒が夢や目標をもち、実現に向けて意欲的に取り組もうとする教育活動については、生徒の進路に対する意識を高めるために、家庭と連携して、進路・キャリア教育の充実を図っていく。</li> </ul>

2 学校教育目標	<p>・ <b>夢実現◇成長の根幹づくり</b> ～<b>尊重の根を張り、しなやかな幹を育む</b>～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体性の育成【生徒会活動を通した自治活動、課題を見つけ解決に向かう学習】</li> <li>○ 自己肯定感・自己有用性を高める【「出番・役割・承認」、行事等の協働活動】</li> <li>○ 人権教育の充実【信頼関係の構築、安心・安全な学校生活】</li> <li>○ 道徳教育、キャリア教育の充実【多様な考え方と自分らしい生き方を学ぶ】</li> <li>○ 社会の一員としての自覚を高める【規範意識、ボランティア精神】</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○研究授業や講師招聘による研修会を通して授業改善に取り組んだ教師90%以上  ○県の学習状況調査において、各教科で県平均以上の通過率を目指す。 ○「毎日の授業に一生懸命に取り組んでいる。また、計画的に家庭学習に取り組んでいる。」と回答した生徒85%以上	・校内研修での研究授業や講師招聘による研修会などを通して、授業改善に努める。  ・計画的に課題を与え、家庭学習に取り組ませる。定期テストなどでは、早めに出題範囲を提示し、計画的な学習を進めさせる。							学力向上対策コーディネーター 学習状況調査担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒を育てる。  ○アンケートに「学校生活は楽しい」と回答した生徒90%以上	・特別の教科道徳の授業実践を基盤とし、道徳的な資質・能力の育成に加え、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ・差別の現実を正しく理解させるとともに、差別に気づき、許さず、行動できる生徒の育成を全教科・全領域を通して行う。 ・人権・同和教育に関する授業や人権講話、人権作文、人権放送等の取組を通して、生徒が身近な課題を自分事として捉え、主体的に考え行動する力を育てる。							人権・同和教育担当 道徳教育推進教師
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)に向けて学校は積極的に取り組んでいると思うと回答した生徒80%以上 ○気になる生徒の情報共有及びSCやSSWとの連携を図ることができていると思うと回答した教師90%以上	・月1回の生活アンケートをもとに、生徒の実態把握に努める。 ・毎月初めに「いじめ・いのちを考える日」を設定し、いじめゼロ宣言の唱和を行う。 ・SCやSSWと連携し、迅速にケース会議を実施する。 ・定期的に関催する教育相談部会を充実させる。 ・定期教育相談(年2回)を実施する。 ・WEBQUの実施と研修会の実施。							生徒指導主事 生徒会担当 教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒85%以上  ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒70%以上	・生徒のwell-beingの実現のために生徒に出番、役割を与え、教師や他の生徒、保護者などによる承認、賞賛を行い、生徒の主体性、当事者意識を高める。 ・学校教育目標でもある「夢実現」をキーワードとして学校教育全体で「夢」を持ち、目標に向かって挑戦・努力することの大切さを意識させる。 ・自分らしい生き方を学ぶためにキャリア・パスポートなどを有効に活用し、進路指導・キャリア教育の計画的実践を図る。 ・社会的・職業的自立に向けて基礎的・汎用的能力(コミュニケーション能力や意欲など)を育成するために各学年で発達段階に応じた教育活動を行い学校から社会への円滑な移行を目指す。 ・進学指導を含め進路に関する諸資料の収集や情報の提供を学校全体で連携して行う。 ・生徒の規律正しい生活や健全な成長のために、部活動の休養日や練習時間のバランスを適切に設定する。							
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で360分以上の生徒80%以上	・防犯教室、交通安全教室を開催し、生徒の安全に対する意識を高める。 ・登校時や下校時に交通指導を行い、交通ルールやマナーを身に付けさせる。 ・校外における危険箇所等について、PTAや地域住民と情報を共有し、生徒への指導に役立てる。							健康教育担当 交通指導担当
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●交通安全の喚起に関する集いを各学期1回以上実施する。								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・学校行事や会議等の随時見直し及び職員間の共通理解・共通実践を図ること。『チーム城東』として協働・協働する職員体制を確立させ、業務改善を図る。 ・県下一斉部活動休業日(月の第3日曜日)と各部活動ごとに週2回の休業日を徹底する。 ・定時退勤日を設定する。							管理職
●特別支援教育の充実	○教室環境整備や学習指導に特別支援教育の視点を取り入れた取組の実践	○環境整備や学習指導の工夫を行ったと思うと回答した教師85%以上	・ユニバーサルデザインを意識した環境づくりや授業づくりの実践 ・特別支援教育の推進を図る職員研修の実施 ・学年部会や特別支援教育部会での支援や合理的配慮についての検討と共通理解 ・巡回相談や専門家(福祉や医療機関など)との連携							特別支援コーディネーター

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--